

未来への投資。新興国の教育事情

外国語教育と言えばまず第一に頭に浮かぶのは英語かもしれませんが、近年では中国経済の急成長を受けて、中国語の存在感が高まっています。

たとえばインドのカピル・シバル人的資源開発相は、公立学校に中国語教育を取り入れ、その推進のために中国政府から協力を得ることを提案しました。インドが国をあげて中国語教育に力を入れる背景には、若年層の人口拡大があります。今後も増加していく若者の就労支援として、インド以上の急成長を遂げている中国経済で将来活躍できる人材を育てる狙いがあるのです。

もちろん中国語に限らず、新興国各国は英語教育に力を入れています。世界の英語力の指標ともいえるTOEFLの2010年の国別スコアでは、韓国が81ポイント、中国77ポイントと、日本の70ポイントを大きく上回りました。

新興国の英語力が上昇している理由には、留学生の増加が関係しているようです。2010年度には、米国内の大学・大学院で学ぶ外国人留学生数において、初めて中国が1位となりました。2位はインド、3位は韓国、さらに台湾が日本を抜いて5位となっています。中国、インド、韓国などの新興国は、優れた留学生を欧米に送り出し、彼らが最先端の科学技術など身につけることで有能な人材が育つことを期待しています。

新興国の教育水準の飛躍的な向上によって、生産性及び技術力の向上も期待できるため、今後ますます経済成長が期待できるでしょう。

米国内の大学・大学院で学ぶ外国人留学生数の出身国・地域別ランキング

(単位:人)

	国名(地域名)	2010年度		国名(地域名)	2010年度
1位	 中国	127,628	8位	 メキシコ	13,450
2位	 インド	104,897	9位	 ベトナム	13,112
3位	 韓国	72,153	10位	 トルコ	12,397
4位	 カナダ	28,145		⋮	⋮
5位	台湾	26,685	14位	 ブラジル	8,786
6位	 日本	24,842	18位	 インドネシア	6,943
7位	 サウジアラビア	15,810	25位	 ロシア	4,827

(出所) 米国国際教育研究所

本資料は、情報提供を目的としてゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(以下「弊社」といいます。)が作成した資料であり、特定の金融商品の推奨(有価証券の取得の勧誘)を目的とするものではありません。本資料に記載された過去のデータは将来の結果を保証するものではありません。本資料は、弊社において入手した信頼できるとされる資料に基づいて作成されていますが、弊社がその正確性・完全性を保証するものではありません。本資料に記載された市場の見通し等は、本資料作成時点での弊社の見解であり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合があります。本資料の一部または全部を、(I)複写、写真複写、あるいはその他のいかなる手段において複製すること、(II)弊社の書面による許可なく再配布することを禁じます。<審査番号:59326.OTHER.MED.OTU>

© 2011 Goldman Sachs. All rights reserved.